

大都市圏の大型物件が増加

浪江の新工場と連携、生産体制強化

藤寿産業

藤寿産業(福島県郡造や一部木材を使用する山形、蔭山寿一社長)は、中大断面集成材の製造や中大規模物件向け部材の加工などを手がける。最近では首都圏など防・耐火制限のある都市部での木造物件に向けた耐火集成材の仕事が増えている。同社の直近の受注の6割以上が民間物件だ。脱炭素やSDGsに取り組む企業が増えるなか、ゼネコンも木

る。使用樹種は国産材が大部分のため、昨今の輸入材製品不足の影響は軽微だが、一部米材や欧州材指定の物件があり、樹種変更などの提案を進めている。同社では今年度初頭の操業開始を予定している福島県浪江町の福島高度集成材製造センター(FLAM)と連携した製造加工体制の構築を進めている。FLAMの運営を委託されることになるウッドコア(朝田宗弘社長)の設立に同社も参加している。FLAMは中大断面集成材を月10



昨年開発の杉を使った高強度集成材。部材開発にも積極的に取り組む

また、新たな耐火集成材や耐火接合部といった耐火関係の技術や、国産材を活用した高強度集成材といった、さらに付加価値を高められる技術・製品の開発も進めている。